

2021 年度 自己評価報告書

2022 年 2 月 25 日
学校法人南星学園

はじめに	2
1. 自己評価の実施体制.....	2
(1) 自己評価実施規約の設定.....	2
(2) 事務局体制.....	2
2. 自己評価の実施対策.....	2
(1) 評価項目の決定	2
(2) 自己評価点の算出.....	2
3. 自己評価の実施.....	3
4. 自己評価結果	3
(1) 自己評価点.....	3
(2) 項目毎の意見.....	4
(01) 教育理念・目標	4
(02) 学校運営	5
(03) 教育活動	6
(04) 学修成果	7
(05) 学生支援	8
(06) 教育環境	9
(07) 学生の受け入れ募集.....	10
(08) 財務.....	11
(09) 法令等の遵守.....	11
(10) 社会貢献・地域貢献.....	11
(11) 国際交流	12
5. 総括	12

はじめに

実践的な職業教育等を行うため、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表することにより、学校としての組織的・継続的な改善を図ることを目的に学校全職員による 2021 年度の自己評価を実施しました。

今回の自己評価を通して明らかになった諸課題の改善策について、学校関係者評価委員会の客観的な評価を得て、役職員の英知を結集し課題改善に取り組みます。

1. 自己評価の実施体制

(1) 自己評価実施規約の設定

- ① 学校経営者及び職員が意識を共有し、組織が一体となって学校自己評価に取り組むため、学校法人南星学園「学校自己評価委員会規約」を設定しました。
- ② 同規約に基づき自己評価委員会を組織化しました。当委員会は学院長を委員長とし、計 8 人の委員で構成します。

(2) 事務局体制

- ① 令和 4 年 1 月 14 日、第 1 回学校自己評価委員会を開催し、学院長が委員長となり、各委員が事務局員を兼務することを確認しました。
- ② 当委員会の事務局は美浜校に置き、事務局長に中島康夫を選任することを了承しました。併せて全委員が自己評価実施の事務局員として業務を分担し、協力することを確認しました。

2. 自己評価の実施対策

(1) 評価項目の決定

- ① 第 2 回学校自己評価委員会で、自己評価の実施対策を検討し、評価項目として、「専修学校における学校評価ガイドライン」に準じて、11 の大項目と 65 の評価小項目を決定しました。
- ② 評価項目は別紙 1 の通りである。

(2) 自己評価点の算出

- ① 各小項目を 4 段階で評価し、その指標として、①適切、②ほぼ適切、③やや不適切、④不適切と表示し、それぞれの指標に対して、4－3－2－1 の数字を適用して数値化します。
- ② 自己評価に参加した全職員の評価数字を合計して平均化し、大項目の評価を判定しました。

③ 更に、数値化した値を次の基準で評価しました。

平均評価点 3.5 以上 達成状況 A

平均評価点 2.5 以上—3.5 未満 . . . 達成状況 B

平均評価点 1.5 以上—2.5 未満 . . . 達成状況 C

平均評価点 1.0 以上—1.5 未満 . . . 達成状況 D

3. 自己評価の実施

(1) 実施前説明会

- ① 自己評価を実施する前に、学校評価の目的、意義、公表までの手順について全職員に説明し、自己評価の実施について理解と認識を共有するように努めました。
- ② 評価の大項目に関する学校の経営、事業、教務、財務等の全般にわたって説明会を開き、学校の実績・現状及び達成状況について全職員に説明し評価に必要な情報を提供しました。
- ③ 説明会は、2022年2月2日の5時から5時40分までの40分間行いました。

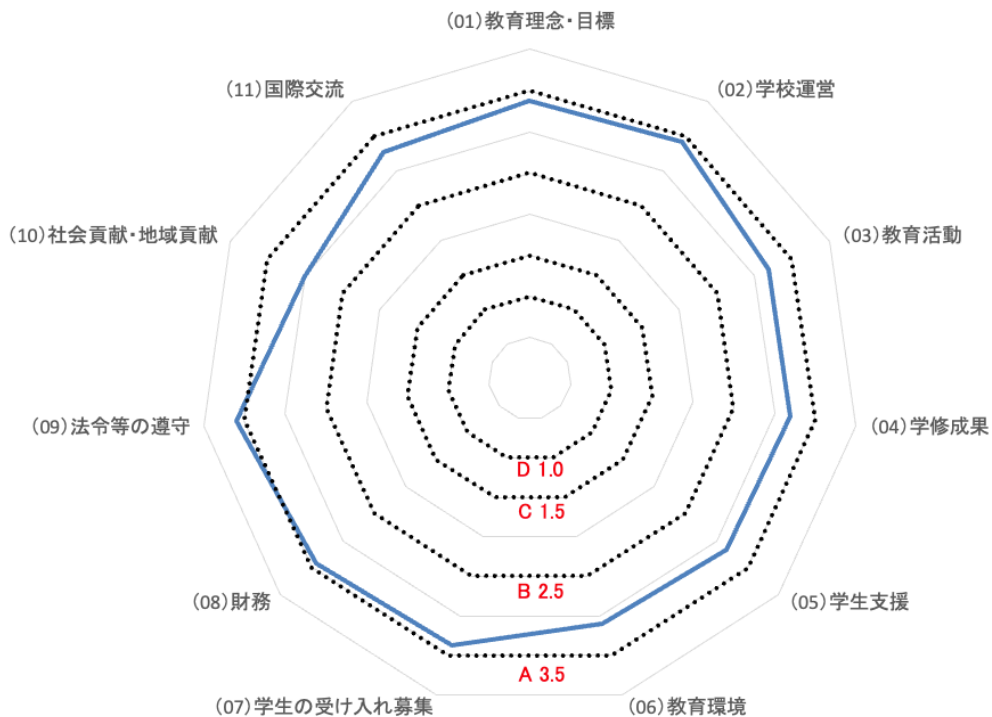
(2) 自己評価の実施方法

自己評価用紙を全職員に配り、2022年2月4日から5日の2日間で評価を行いました。

4. 自己評価結果

(1) 自己評価点

評価項目	評価点	判定
(01) 教育理念・目標	3.39	B
(02) 学校運営	3.43	B
(03) 教育活動	3.19	B
(04) 学修成果	3.20	B
(05) 学生支援	3.17	B
(06) 教育環境	3.11	B
(07) 学生の受け入れ募集	3.38	B
(08) 財務	3.43	B
(09) 法令等の遵守	3.60	A
(10) 社会貢献・地域貢献	3.00	B
(11) 国際交流	3.28	B



(2) 項目毎の意見

(01) 教育理念・目標

- 業界ニーズに対応できるように、各学科の教育目標、育成人材像等は方向づけられている。
- 去年の評価を受け、改善にむけ努力されていると感じています。
- 学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想など、留学生の保護者への周知に対しては、HPにおいて各国語版をつくるなどの検討が必要。
- 留学生の場合は学生自身、さらに保護者にも周知されているとはいいがたい。手段の検討が必要と思われる。
- IT 業界では海外と日本国内の架け橋になるような存在を求められている。企業が求める日本語力や人材像がいまいち伝わっていないので、学内企業説明会を実施し、企業と学生が交流できるような機会があればいいと思った。
- 学校の理念等が外国人の保護者に周知されているとはいい難い。
- 【学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想等の周知】に関して留学生保護者への周知は、言語の違い等もあり周知が難しいと思いました。
- 学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などを学生・保護者等に周知させるためには、新学期のオリエンテーション等で、「学生の心得」等を用いて行うのが効果的だと思うが、コロナ対策等で十分な対応ができなかった。外国人留学

生・保護者のためには、英語表記の心得を準備し、ホームページ等で発信すると良いのではないか。

- 新型コロナ感染拡大防止の影響もあり、学生・保護者等への周知の機会が十分とれなかった。周知の機会、方法に検討が必要と思われる。
- 社会経済のニーズへのリサーチが不十分で、それは専門知識と多くの時間を必要としている。
- 入学時に学生にわたす「学校のルール」に明記し説明しているが、理解や記憶ができない学生がとても多い。
- ニュースレターやメルマガなど、サイテクの特徴等について学生・保護者向けの情報発信ができれば、もっと良いと思う。

(02) 学校運営

- 本年度は交通費の支給が実施され、前年よりも整備された。
- 給与に関して、今年度から交通費支給もあり、改善されている。
- 人事・給与の既定等、改善し整備されつつあると感じています。またシステム化も図られ那覇・美浜との情報を共有できるよう活用していきたい。
- オンラインストレージなどの活用により、場所に関係なく業務を行うことができ、とても効率的になっている。
- 業務の効率化は図られている。福利厚生や給与の規定等はまだ改善できる余地はあると思う。
- あらかじめ、年間行事で組まれている時間外労働（オープンスクールや検定等）については時間外稟議書の提出は不要ではないかと考える。
- 人事に関連して、新規採用の際には募集する学科、担当させる科目に合った資格、望ましい経歴等を明記して、齟齬が生じないように募集をかけるべきだと考える。
- 企業から成績証明書をPDF化するよう求められることが多い。現状として、学生自身がスマホでPDF化しているが、学校でもデータ発行できるような仕組みがあればいいと思った。
- コンプライアンスに都度、注意はしているが、体制を明文化し整備されているとはいえない。
- この設問は、どの程度の話を公開しようとしているかがわからない。
- 効率化が多少図られているが、一般企業が行っているような標準化はされていない。
- 新型コロナ感染対応のように基準が変動し、それに伴う対応が求められる場合、意思決定システムを有効に機能させるための構成人員を増やす必要があるのではないかと考える。

(03) 教育活動

- 本年度は情報システム科の留学生在がインターンシップに参加し、一部が採用につながったことで、次年度以降のカリキュラムや就職対策に反映できるような情報収集が可能になった点は、高く評価できると思う。
- 留学生のインターンシップが実施できたのはよかった。企業から学生の自己評価表が紙による記入ではなく、デジタル化してほしいと要望があった。来年度はWordやExcelなどで提出しやすいフォーマットができるようにしたい。
- 【職業育成に対する外部関係者からの評価を取り入れているか】について、先生方の日頃の授業風景等を年に1回でも外部関係者にみてもらおう等で意見を聞く機会があると授業内容の質向上に繋がると思いました。(決して今が悪いと思っ
ていません)
- コロナ禍の中で苦勞する場面も多々あり、行き詰まる思いも多々ありましたがコロナ禍だからこそできることも挑戦し、前向きにとらえることもあったと感じています。研修についてはコロナで中止も多く残念に思いました
- 新型コロナ感染拡大状況下では、教育活動が十分できないものもあった。
- 各学科のカリキュラムは体系的に編成されているが、職員の能力開発のための研修経費が確保できたらよいと思う。
- 「学外から取り入れる」、「資質向上のための取組み」、「能力開発のための研修参加」など対外的なものへの取組みに力を入れる必要がある。
- 企業や卒業生などからの声を取り入れる機会が増やせればよいと思う。
- 本年度もコロナ禍のため、そのような機会に恵まれなかった。次年度以降、状況が許す範囲で実施できればと思う。
- 学外での研修会へ参加するなどして新しい知識を得ることが望ましいが難しい。せめて学内研修会や互いの授業見学を定期的に行って、非常勤講師を含めた教員チーム全体の資質向上に努めることが必要だと考える。
- 教員の授業時数確保のために専門分野ではない科目を教えている現状がある。知っている知識だけで教えるには満足いく教育は難しいと感じる。専門の教員を雇うか研修会を設けたり、講座に参加したりなどすればさらにいい教育ができるのではないか。
- コロナ禍でもあった為研修等の取組は少なかつたように感じる。
- 学科の修業年限に対応した教育到達レベルは、留学生の日本語力とのバランスがとれずに、教師・学生とも苦勞している。
- 03-04 意識をした授業はしているが、資格取得に注力する以上には、実現していない。

- 03-06 意識し実行しているが、体系的な位置づけ（明文化）には、至っていない。
- 03-07 授業に対する評価（研究授業等）までは行っていない。
- 03-08 外部関係者からの評価は聞こえるが、アンケートなどの積極的なリサーチではない。
- 03-11 人材はあるが、人数が足りていない（体制もあるので、しょうがない）
- 03-12 関連分野における業界等との連携は不十分
- 03-13 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修には至っていない
- 03-14 職員の能力開発のための研修等が行われてはいるが、R 3年度の実績は少ない。
- 13,14 について、教職員に対する組織だった研修等がないような気がするので半年に一回程度あるといいと思います。

(04) 学修成果

- 卒業後のキャリア形成と効果についてもっと把握する必要があると思う。
- 04-01：コロナ禍であることを考えれば、健闘している。
- 04-02：資格によって任意で受けるものがあるため、各コースの達成目標として、全員受験できるようにしたい。
- 04-02 前年度と比較し、オンライン授業期間が長かったことが影響し、実技実習指導に十分な時間が取れず、結果として受験者数および合格率も伸び悩んだように感じた。
- 04-03 コロナの影響か1年生の留学生の中には、収入減からの生活への不安や、慣れない上に度重なったオンライン授業で、学習へのモチベーションが維持できず、前期で退学し帰国するものもいた。
- 04-04、05：卒業後の活動についてどの程度まで把握すべきか、留学生の場合は帰国後まで追って情報を収集すべきか、その方法も含めて検討すべきだと考える。
- 04-05 卒業生講話などをしてきたが、今年はコロナもあって、できていない。
- 04-03 学生と学校の LINE でつながるようになり、学校生活での悩み相談等が行いやすくなり、退学率低減につながったと思う。
- 臨時休校、オンライン授業、出席停止などの下では、できる限りのことしかできないのではないかと思う。
- 04-01：昨年度に引き続き、留学生本科の就職は社会的状況もあって困難で担当教員に負担を強いているようだ。
- 退学者が増えている。経済的な問題や本人の勉強意欲に問題があるように思わ

れる。

- 教務職員が授業をしながら就職活動支援をするのはやはり限界を感じる。また学生も教師に相談したくても教師が授業があり相談する時間がとれないという状況がある。学生にとっても相談できる場所が必要。就職率向上のためにも就職活動支援ができる職員や部署が必要だと思う。
- 建築デザイン科においては、入学前の学業に対する意欲等の確認は必要ではないかと感じている。
- 04-04【卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか】について、担任をもつ先生方は把握していると思います。特に卒業生の活躍の把握となると、事務局側は把握が難しいと思いました。
- 個々の進路希望を的確に把握し、入学から卒業までの一貫したキャリア教育により、学生個々の自覚を促しながら進路希望を実現させる体制を整備する必要がある。
- 04-04 すべては把握していない。
- 学科により取り組みに差があるように感じています。
- 卒業生の活躍の把握をしたり、卒業生と在校生をつなげることができると、在学中の学習効果、就職率の向上につながると思う。
- 5については、コロナ禍でインターンシップなどの実施が難しかったので、次年度は実施出来たらいいですね。

(05) 学生支援

- 就職、進学に対する支援体制はできている。
- 05-03：昨年度に引き続き、「学びの継続のための緊急給付金」など国や冲専各などからの経済的支援、また民間の団体からの食糧支援があり学生生活の助けとなった。
- しかし、上記給付金および「文部科学省外国人留学生学習奨励費」のように該当年度または前年度の学生数から対象人数が割り出される制度もあり、学生数減少の折、次年度の支援の有無が懸念される。
- 給付金やフードバンクを活用し、経済面・生活面ではサポートできたのではないかと思う。
- 05-01 女子にはメイク講習で就職活動のサポートが出来ているが、男子も髪型等を整えられるような講習ができると面接等で役立つので次年度から取り入れられたらいいなと思います。
- 前回手続きの前に必要な確認事項を明確にできるよう整理したいと思っていたが、結局手がまわらず。引き続き整備していけるよう頑張りたい。

- 10 について、高校等との連携はなかなか難しいですが、何らかの連携・取り組みができるといいと思います。
- 現状の中で、できる限りのことを行っていると思う。
- 05-09 については、卒業生との連絡の取合いで多少のニーズの把握ができ始めています。しかし、依然として 05-10 については行われていません。
- 05-01, 02：担任とは別に、専門の学生相談窓口があるとよい。
- 05-03：コロナ禍における特別給付金などが支給されたが、すべての学生に支給されるわけではないので、今後財務上で余裕が出るようであれば、学内奨学金制度などが作ればよりよいと思う。
- 日本人学生に対する奨学制度はあるが、留学生に対する支援がない中、本年度は緊急給付金で学費の負担軽減がはかられた学生もいた。支援を希望する学生の声は多く、中には非常に困窮状態におかれた学生もいた。
- これらの事例をヒントに、サイテクの奨学特待生制度（2 年次の学費の一部減免など）を学内の留学生向けにも整備し、その実績ができれば特色ある学校独自の取り組みとして学生募集の際にも活かせるのではないかと思い、提案したい。
- 2021 年度卒予定の情報システム科のインドネシア留学生のほとんどがアルバイト先での入学時から特定技能を希望しており、就職活動に消極的だった。インドネシア留学生は学費などの問題があった際に、エージェントを經由して保護者へ連絡するようにすすめてきたが、話をしていない。保護者に直接説明できるようにしたい。
- 05-03【学生に対する経済的な支援体制は整備されているか】について、学生からコロナの影響で収入が減少していることに対して考えてほしいと複数意見が寄せられています。（割引等）
- 学生個々の状況を的確に把握し、保護者と連携して課題を解決し、各自の進路希望を実現させるためには、学生相談体制を整備する必要がある。

(06) 教育環境

- 危機管理体制は徐々に整いつつある。
- 学校外の実習施設については今後の課題ではあるが、インターンシップなどを積極的に取り入れているので、概ね適切だと思います。
- 06-02：本年度は情報システム科もインターンシップを行う学生がいて、昨年度よりも整備されたように感じる。
- 06-01：学内で行う教育活動には支障がないが、オンライン授業をする場合には学生側の環境整備が課題となると考える。
- 一般社団法人沖縄 IT イノベーション戦略センターと連携し IT 企業のインターンシップが実現できたことは、とても良かった。サーティファイ WEB クリエータ

ーエキスパートを受験でき、自分の教科を広げるいい機会となった。

- 06-01 オンライン授業が度重なり、さらには長期化する中で、1年生から個人所有のPCを希望する声の一部聞こえた。本年度はIT系企業への就職内定者、インターンシップ参加者もでているので、今後、情報システム科への新入生があれば、入学時にPCを購入させることを検討していいのではないかと感じた。
- 06-01 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応・・・PC、ネット環境に関しては、不十分
- 06-02 学校外の実習施設、インターンシップ、海外研修等・・・実習施設・海外研修はない。
- 06-03 危機管理体制・・・教育環境の危機管理とは、どれのことでしょうか？、少なくとも文書化されていない。
- 06-03 職員の連絡網(緊急連絡先まで)があった方がいいと思います。緊急連絡先まで把握していないと、本人に何かあった際の連絡手段に困る為。
- 避難時の職員の役割分担や避難ルートの周知等、避難訓練など学校全体でしっかり取り組めたらもう少し安心できると思います
- 01について、1F駐車場にある倉庫を更新して活用できるといいと思います。
- 施設・設備の整備は、優先順序を定め計画的に行っていると思うが、今年度は、インターネットの環境整備を急遽帝対応している。

(07) 学生の受け入れ募集

- 学納金は妥当だと思う。留学生の学生募集に関してFは、新型コロナ下では改善の余地があると思う。
- 07-01, 02: 本年度はコロナ禍のため、海外向けのオンライン説明会などに参加した。
- 今年は高校へ足を運ぶ機会が少なかったため、次年度はもう少し学校周りも行っていきたい。
- 勉強不足で何が妥当かはわからないので勉強していきたくと思います
- コロナ感染拡大防止の状況下で、十分な募集活動は行えなかった。
- 日本語科から留学生本科または本科から本科への進学であっても期日を守れない者、学力や経済力等条件に満たしていない者は受け入れない方がいい。
- いまだに入学選考は書類審査のみで先着順となっています。やる気のある生徒、優秀な生徒をできるだけ多く入学させるには、最低限「面接」は必要と思われます。
- 07-05: 昨年度からの新規入国困難の状況で本校および県内外の外国人留学生が減少し、その影響がダイレクトに留学生本科への応募に表れて「友達紹介キャンペーン」の効果もなかったのは残念だった。来年度、国際情報ビジネス科の1,

2年生合併クラスがうまく機能するか心配される。

- 建築デザイン科においては、今回自主退学者が数名でており入学前の面接試験等は必要ではないかと感じている。
- 入学時点の割引が多いが、2年次に進学する際の割引がもっとあればいいなと思った。ほかの学校ではN2取得や出席率100%の場合は1万円、5万円の割引があるので、2年次も学生が勉強に意欲的に頑張れるような特典があればよりPRにつながると思う。

(08) 財務

- 現状の中で、できる限りのことを行っていると思う。
- コロナで不安しかありませんが、影響を受けるのはこれからということで改めて気を引き締め、新たな仕事へも意欲的に頑張りたいです
- 新型コロナ前は安定した財政基盤が確立されていたが、新型コロナ下では安定しているとは言えない。
- 留学生が入ってこないため不安があるが、委託事業など新規取り組みに期待している。
- 08-01 中長期的に学校の財務基盤・・・安定しているか、いないかは、していません。
- 08-02 予算・収支計画は有効かつ妥当か・・・これは、わかりません。

(09) 法令等の遵守

- 自己評価の問題点はまだ改善の余地がある。
- 建築デザイン科のパンフレットにフルネームが掲載されていた時期があったが、最近では事前に使用の許可を取ったり、苗字だけなど配慮を行っているので良いと思う。
- 評価を受け改善が図られ、より働きやすい環境になっていると感じています。
- 現状の中で、できる限りのことを行っていると思う。

(10) 社会貢献・地域貢献

学校の教育資源や施設を利用した社会貢献として、リカレント教育の導入は必要だと思う。

10-01 は次年度から委託事業が始まるので、それと関係があると思うので概ね適切に思います。

10-03 少なくとも本年度に関しては、「積極的に実施」とは言えない。

コロナ禍で制限があり、活動は控えめではあったが、ボランティアに関心ある学生は多いと思います。積極的に活動できる日常が戻ることを祈るばかりです

- コロナ感染拡大の状況下で、積極的な活動は行えなかった。
- 10-02 昨年度は留学生のみで実施した地域清掃活動を、本年度は全学科で実施する予定だったが、まん延防止措置のため延期した。さらには期間延長で、代替日を設けることができず、中止となった。
- コロナ渦で実施できなかった活動を来年以降再開できるようにと望む。その際には全学科の学生の参加を希望する。
- 2年生は面接前に、ハローワークの面接指導や求人票紹介を受けている。
- 10-01 「学校の教育資源や施設を活用」は、していないと思う。

(11) 国際交流

- 留学生の生活指導のため学内に適切な体制は整備されている。学習成果を国外に評価される体制は十分ではないので、改善の余地はある。
- 11-01：現在留学生の受け入れ先は2か国のみである。今後受け入れ態勢が整えられれば、受け入れ国を増やせるような戦略を練るべきである。
- 11-03：突発的な事故の対応や出席を含めた生活面の指導は担任及び生活指導担当教員の負担が大きいと考える。教員とは別の専門職員の配置が必要ではないだろうか。
- お金の管理方法や銀行のシステムが理解できていない。気が付いたときに個別に対応しているが理解に時間がかかる。
- 校内の学習発表会はあるが、国内外ではない。ネット配信という方法も考えられるが、個人情報の問題も出てくるため何かいい方法があれば教えていただきたい。
- 前回と同じになってしまいますが一部の先生方に負担が多く心苦しく思う。何か力になりたいと思うができることも限られており、改善し体制を整えるのも勿論だと思うが同じ職場で働く者同士積極的に関わっていく姿勢を持ちたい
- 04 について、留学生本科の HP の英語やネパール語表記による情報発信（学校のカリキュラム・イベントの情報や就職先の情報など）できるといいと思います。
- 留学生の受入れ・派遣を戦略的に行うには、学校運営の整備が必要と考える。

5. 総括

2021 年度の自己評価を 2022 年 2 月 2 日に実施し、22 名の職員から回答を頂きました。

自己評価点が前年度より上がった項目は (06) 教育環境、(09) 法令等の遵守、(10) 社会貢献・地域貢献の 3 項目でした。

前年度より下がった項目は(01)教育理念・目標、(02)学校運営、(03)教育活動、(04)学修成果、(05)学生支援、(06)教育環境、(07)学生の受け入れ募集、(08)財務、(09)法令等の遵守、(10)社会貢献・地域貢献、(11)国際交流の11項目でした。

最も評価点が高かった項目は(09)法令等の遵守 3.60 で、最も評価点が低かった項目は(10)社会貢献・地域貢献 3.00 でした。

最も評価点が上がったのは(10)社会貢献・地域貢献 0.33 で、最も評価点が下がったのは((07)学生の受け入れ募集△0.31) でした。

自己評価の判定が改善したのはなく、判定が悪化したのは(01)教育理念・目標と(07)学生の受け入れ募集 A→B でした。

COVID19の影響により進学希望者を対象としたガイダンスの中止、高等学校への広報活動が実施できなかったことなどが(07)学生の受け入れ募集の評価点に影響しました。

昨年度と比べて評価点が低下している項目が多いものの、大きな下げ幅ではありませんでした。

意見総数は155件で、もっとも意見が上がったのは(06)教育環境に対するものでした。意見の中には学校の取組に対してポジティブな意見が上がる一方で、改善を要望する意見もありました。

挙げた意見を通釈し、2022年度の改善方策を立案後に学校関係者評価委員からの評価を頂きます。